## 集合と順序集合の双対随伴

 $@kyo_math1729$ 

定義 1. 順序集合 M の部分集合  $V \subset M$  について任意の  $a,b \in M$  で

$$a \le b, \ a \in V \Rightarrow b \in V$$

が成り立つとき, V は upper set であるという.

順序集合 M に対してその upper set 全体の集合を U(M) と書く.

$$U(M) = \{ V \subset M \mid V \text{ it upper set} \}$$

命題 2.  $f\colon M\to N$  は順序集合の間の順序を保つ写像とする. このとき  $V\subset N$  が upper set ならば  $f^{-1}(V)\subset M$  も upper set である.

証明.  $a,b \in M$  が  $a \le b$ ,  $a \in f^{-1}(V)$  とすると  $f(a) \le f(b)$ ,  $f(a) \in V$  で V は upper set なので  $f(b) \in V$ . よって  $b \in f^{-1}(V)$ .

この命題から U が反変関手を定めることがわかる. 即ち, Set を集合と写像の圏, Ord を順序集合と順序を保つ写像の圏としたとき

$$\begin{array}{ccc}
N & & U(N) \\
f & & \mapsto & \downarrow f^{-1} \\
M & & U(M)
\end{array}$$

で関手  $U: \operatorname{Ord}^{\operatorname{op}} \to \operatorname{Set}$  が定まる.

また写像の逆像は反変関手

$$\begin{array}{ccc}
P & & \mathcal{P}(P) \\
f & & \mapsto & \int_{Q} f^{-1} \\
Q & & \mathcal{P}(Q)
\end{array}$$

を定めるのだった. これを  $I: Set \to Ord^{op}$  と書く.

定理 3.  $U \ge I$  は随伴  $U \dashv I$  である.

$$Ord^{op} \xrightarrow{\perp} Set$$

**証明.** 集合 P と順序集合 M に対して順序を保つ写像  $M \to \mathcal{P}(P)$  と写像  $P \to U(M)$  が一対一に対応することを示そう.

自然な同型  $\mathcal{P}(P)\cong 2^P$  と Curry 化の随伴に注意すると以下の同型を得る. (Hom 集合はすべて Set のもの)

$$\begin{aligned} \operatorname{Hom}(M,\mathcal{P}(P)) &\cong \operatorname{Hom}(M,\ 2^P) \\ &\cong \operatorname{Hom}(M \times P,\ 2) \\ &\cong \operatorname{Hom}(P,\ 2^M) \\ &\cong \operatorname{Hom}(P,\ \mathcal{P}(M)) \end{aligned}$$

よって写像  $f\colon M\to \mathcal{P}(P)$  について f が順序を保つことと,f をこの同型で写した写像  $\bar{f}\colon P\to \mathcal{P}(M)$  の像が  $U(M)\subset \mathcal{P}(M)$  に入ることの同値性を示せばよい.

上の同型は  $a \in M$  と  $p \in P$  に対して

$$p \in f(a) \Leftrightarrow \bar{f}(a,p) = 1$$
  
 $\Leftrightarrow a \in \bar{\bar{f}}(p)$ 

とすることで与えられている. よって f の順序保存条件の対応を考えると,  $a,b \in M$  と  $p \in P$  に対して

$$\begin{aligned} a \leq b \Rightarrow f(a) \subset f(b) &\iff a \leq b, \ p \in f(a) \Rightarrow p \in f(b) \\ &\iff a \leq b, \ a \in \bar{\bar{f}}(p) \Rightarrow b \in \bar{\bar{f}}(p) \end{aligned}$$

となる.最右辺の条件は任意の  $p \in P$  について  $\bar{\bar{f}}(p)$  が upper set であることを示している.  $\square$